



足柄上地域における 地域リハビリテーション活動推進の取組み

～住民主体の介護予防活動の充実を目指して～



県西(足柄上)地域における
地域リハビリ等の推進に係る意見交換会



足柄上地域の実情

- 総人口・生産年齢人口は減少している地域が多い
- 一方、高齢化は進展しており、特に75歳以上の高齢者人口が増加している地域が多い
- 介護認定率は上昇しており、特に軽度認定者（要支援～要介護2）が増加している地域が多い
- 介護や介助を必要とする原因としては、高齢による衰弱（フレイル）が多い
- 将来的な医療資源、在宅医療、医療従事専門職者の不足

- **高齢者の健康寿命を延伸する対策が重要**
- **介護予防の推進、特にフレイル対策が必要**
- **地域リハビリテーションの展開が不可欠**



地域の関係機関による意見交換の実施

■ 令和5年5月

県西(足柄上)地域における地域リハビリ等の推進に係る意見交換会発足

■ 構成

座長 県立保健福祉大学リハビリテーション学科准教授 平瀬達哉

構成員 関係自治体、リハ専門職(県西地区リハビリテーション協議会)、
足柄上医師会、足柄上地区在宅医療・介護連携支援センター、
県立足柄上病院、介護老人保健施設、ケアマネ連絡会 ほか

事務局 県立病院機構

- 足柄上地域の特性に応じた、地域リハビリテーションを推進するため、地域の保健医療福祉の関係機関からなる意見交換会を設置。

具体的な検討のため令和5年10月から自治体等によるWGを設置。

- ヒアリングによる地域課題の把握や地域リハビリの検討方策について意見交換。



これまでの経過と取り組みの内容

日時	内容
令和5年5月16日	県西(足柄上)地域における 地域リハビリ等の推進に係る意見交換会 第1回意見交換会
令和5年6月9日 ～7月18日	関係機関・市町へのヒアリング
令和5年9月5日	第2回意見交換会 地域課題の把握について
令和5年10月1日 ～令和6年2月29日	WGによる協議
令和6年3月15日	第3回意見交換会 対応の方向性について



関係機関・自治体へのヒアリング結果

■ 主な意見

■ リハ職との連携を拡充したい

- ・ 地域ケア会議、通いの場、ボランティア育成
- ・ 通いの場の運動の効果検証やデータ分析、事業評価 等
- ⇔ リハ専門職が少なく事業拡大が難しい
どこに相談したらよいかわからない

■ 通いの場の運営を強化したい

- ・ 担い手となるボランティアの育成や活動の支援
- ⇔ 高齢化の進行でボランティアの確保が難しい
高齢者自身に自助や主体的な活動をする力が必要

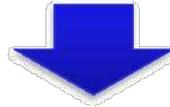


課題と対応の方向性

■ 市町のニーズとリハ専門職を的確につなげる



市町がリハ専門職の派遣依頼や相談ができる窓口を設置



窓口：県西地区リハビリテーション協議会

■ 介護予防サポーターの養成にリハ専門職が関わる

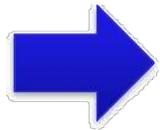


- 介護予防サポーター現任者教育プログラムの開発
- 地域住民を対象とした健康チェック会の開催と効果検証



課題と対応の方向性

- リハ専門職を活用した介護予防サポーター現任者教育プログラムの開発



住民主体の介護予防（通いの場）活動の充実

- 40歳以上の地域住民を対象とした健康チェック会の開催と効果検証



住民の健康リテラシーの向上



介護予防サポーター現任者教育プログラムの開発

現在の介護予防サポーター養成講座等

対象	健康やボランティア活動に関心のある方
講師	健康運動指導士など
講座の特徴	ご当地体操などの運動メニュー等の指導
養成後活動	通いの場で、ご当地体操などを指導
課題	リハ専門職の視点（自立支援）が不足している 効果検証・フィードバックが不足している 通いの場への参加希望者が減っている ボランティア希望者の確保が難しい、底上げも必要



介護予防サポーター現任者教育プログラムの開発

リハ専門職を活用した介護予防サポーター現任者教育プログラム(案)

対象	既存養成講座の受講者、通いの場でサポーターとして活動している方
講師	リハ専門職 (理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)
講座の特徴	介護予防対策(フレイル、認知機能、口腔嚥下・誤嚥性肺炎防止)の理解 介護予防における運動・認知機能・心理面の評価の仕方や計測方法など 通いの場での活動における課題と課題解決方法
養成後活動	通いの場で、参加者に介護予防や運動を指導、効果判定の実施
効果	リハ専門職の活用により最新の知識を理解し実践できるサポーター育成 エビデンスのある評価とアプローチの習得 通いの場の参加者のモチベーションアップ、参加者の増加 主体的なマインドを持ったサポーターの育成、意欲の向上

WGやリハ専門職(神奈川県西地区リハビリテーション協議会等)
の意見をもとに作成(4回シリーズ、一か月程度)



健康チェック会の開催と効果検証

項目	詳細
一般情報	基本属性、フレイル質問、転倒状況、痛み、生活機能、主観的健康観、特定健診質問（40歳以上）
運動機能	筋力、歩行能力、バランス能力、下肢周径、骨格筋量
認知機能	Mini-cog、主観的な認知機能低下質問
心理面	老年期うつ評価、転倒に対する自己効力感
栄養・睡眠・活動量	簡易栄養状態評価、ピッツバーグ睡眠質問票、国際標準化身体活動質問票

- 通いの場参加者や介護予防サポーター現任者教育プログラムの受講者も参加し、**通いの場や介護予防サポーター養成の効果検証**を行う
- **リハ専門職による結果返却会も開催し地域住民の健康リテラシーの向上**につなげる

開成町で
トライアル実施

若い世代が増加しているため、今後の介護予防戦略（疾病予防）も視野



健康チェック会のトライアル実施

開成町
かいせいまち
開成町
けんこう かい
健康チェック会

2024年9月28日(土) 開催

健康チェックで健康寿命をのばそう!!

午前の部 10時~12時 先着30名	午後の部 13時30分~15時30分 先着30名
--------------------------	--------------------------------

*お申込みの方には後日、個別に受付時間をお知らせします

お申込み期限
2024年8月23日(金)
電話または窓口にて
福祉介護課 ☎0465-84-0316

場所 : 福祉会館1階 多目的ホール
(開成町吉田島1043-1)

対象 : 町内在住の40歳以上の方

地域の介護予防ボランティア活動をしている方もお申込みいただけます

開成町にお住いの皆さんを
心身ともに健康に!!

- 握力 四肢筋肉量
- 数字符号置換検査
- Mini-Cog
- TUG
- 5回椅子起立
- 10m歩行
- 開眼片足立位

*このような内容の健康チェックを、専門職の立会いのもと行います
*測定にかかる時間はおひとりで1時間程度です

神奈川県立保健福祉大学の研究に協力して行われるこの健康チェック会は「運動機能」「認知機能」を測定します

後日、結果返却会も行われます
リハビリ専門職のアドバイスをもちに、
もっと健康的な生活を送るための第一歩を!

結果返却会は2025年2月頃を予定しています

お問い合わせ : 福祉介護課介護保険担当 ☎0465-84-0316

開成町
かいせい town



今後の展開とめざす姿

今後の取組み

- 介護予防サポーター現任者教育プログラムの完成と地域への導入
- 地域住民を対象とした健康チェック会の開催と効果検証

地域リハビリの展開



- 自立支援の理念に基づいた介護予防サポーターが活動
- 住民主体の介護予防活動の充実と、住民の健康リテラシーの向上



めざす姿

- 住民の主体的な健康増進、介護予防対策で健康寿命の延伸
- 将来的な介護人材・医療人材不足への対応
- 介護給付費及び医療費の増加抑制